

福祉サービス第三者評価結果の公表ガイドライン

① 第三者評価者機関名

特定非営利活動法人 福祉研究会

② 施設・事業所情報

名称：静岡市立東豊田こども園		種別：幼保連携型認定こども園
代表者氏名：鈴木富美子		定員（利用人数）：100名（78名）
所在地：静岡県静岡市駿河区池田492番地の2		
TEL：054-262-0096	ホームページ： https://higashitoyodakodomoen.shizuoka.ednet.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成27年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等） 静岡市		
職員数	常勤職員： 8名	非常勤職員： 4名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育教諭 12名	主任事務員 1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室 6	（設備等）給湯室 1
施設・設備の概要	遊戯室 1	プール 1
	職員室 1	園庭
	会議室 1	トイレ

③ 理念・基本方針

- 1) 静岡市子ども・子育て支援プランの基本理念【静岡市は子どもを大切にします】
- 2) 第二次静岡市教育振興基本計画における目指す子どもたちの姿【たくましく しなやかな子どもたち】
- 3) 東豊田こども園 園目標【心豊かに表現する子】
- 4) <願う子ども像> <重点目標> 自分からひと・ものとのかかわりを楽しむ
を具体的にして全職員で共通理解し保育に当たる。

<基本方針>

- ① 子どもの最善の利益を考え専門性を活かした教育、保育を実施する。
- ② 子どもの成長を保護者と共に喜び合い子育てや仕事が安心してできる
- ③ 地域の自然環境や社会的環境などを最大限生かし地域に根ざした保育を行う

④ 施設・事業所の特徴的な取り組み

- 1) 地域の自然環境や社会環境を保育に活かしている。
ユネスコスクールとして登録され多くの研究をしている。
市全体で取り組もうとしているSDGsの推進とし理解し教育の質を高めている。

- 2) 静岡市が取り組んでいる小中一貫教育の幼児期を担当し、東豊田中学校区で12年間の育ちを見通したグランドデザインを作成している。近隣校との連携がしっかり作られている
- 3) 旧幼稚園であったため遊戯室や園庭が広く子どもたちがのびのび生活できる
- 4) 近隣に大学や高校がある為学生のボランティアが多くいる
- 5) 地域の方の協力が多く得られる。
- 6) 子どもの人数に対して適切な人員配置がされている
- 7) 保護者の妊娠・出産や就労変更でも園を転園することなく在園できている

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施機関； 平成30年10月3日～平成31年2月22日

受審回数； 第三者評価はなし

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1 地域の子どもは地域が育てる

東豊田学区ならではの地域の自然環境や社会環境を保育に活かしている。東豊田地区は子ども園や小中学校の教育に関心が高く、地域の方々をはじめ健全育成会、静岡ガス（ビオトープ）、日本平動物園（動物園の堆肥を使った畑づくり）、大学（ボランティア）、医療福祉機関（特別支援）等の協力を得て「地域の子どもは地域が育てる」という思いが昔から続いている。そのため30年以上、園児のお茶摘みやたけのこ堀、藁を使った正月飾り作りなどが続いている

2 ユネスコスクールと小中一貫教育支援

地域の教育力や自然環境を活かした取り組みがESD教育に繋がっている。本園のプロジェクト「竹を活用して里山を守ろう」では、放置竹林→たけのこ堀→竹粉を使った肥料づくり→竹を使った教材→「幼児教育は環境を通した遊びから」を実践している。

静岡市は平成34年度から全市一斉に小中一貫を行うことになり、それに先駆け平成31年度から2年間サポート校として研究を進めることになった。これまでの小学校との連携が評価され、小中一貫の中にこども園も入れた12年間の育ち中で幼児期を担当することになった。

注) ESD：持続可能な社会の担い手の育成

ユネスコスクール：ESDのパイロット校

3 PDCAサイクルを基本にした職員会議、園内研修、研修発表

職員会議で日案、週案、月案について定期的に振り返りや評価を次に繋いでいくPDCAサイクルが定着している。日案では子どもの育ちをしっかりと確認し、園長のアドバイスをもらいながら保育の連続性を維持している。また、保育者の力量アップのため園内研修を週1回必ず行っている。幼児期の主体性を育む子供に適した教材提供が

行われ、

E S D研修実践発表を全職員が行っている

◇改善を求められる点

1 手引き、マニュアル類のタイムリーな改定

日案、週案、月案の中には会議で検討した解決策や園長の赤ペンが随所にみられる。これらを分類整理して関連の手引き、マニュアル類の改定にまで繋げ、標準的な実施方法の見直しのよい機会としたい。

2 ヒヤリハット情報をマップにして見える化

園舎はあちこちに段差がある構造で、支援の必要な子ども達のためにもバリアフリー化が望まれる。園内見取り図に危険の潜む場所、回数をプロットした「ヒヤリハットマップ」を園内各所に掲示したい。また、園内見取り図は必ず消火器の位置を記入したものを用意したい。

3 おいしい給食へ

子ども達が外搬給食のため「おいしくない」、「冷たい」という声が多い。他の子ども園と同様に自園給食や近隣校と同様な学校給食を働きかけたい。食事の風景を見ると、弁当箱では食べにくそうで、いくつかのお皿に盛った楽しい給食の雰囲気にした

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受審を受けて園の良さと課題を多角的に見ることが出来ました。常に教育方針や教育・保育目標について取り組み方や方向性を職員と確認して保育の向上に努めてまいりました。その結果、年度末には子どもたちの成長を確認し保護者の方とも共有できつつあります。しかし、保護者の方にも重要事項説明書の理解度を把握し園の機能などについてもっと発信していく必要性を感じました。また、安全性について再確認してつねに安全安心なこども園になるよう肝に銘じました。

今後は、今回の受審を受け本園の良さを前面にだし東豊田こども園ならではの教育・保育を大切にしていこども園と保護者、地域と共に開かれたこども園を継続していきたいと思えます。いろいろご指導ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果〔保育所〕

※すべての評価細目について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

- a 評価…よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 b 評価…aに至らない状況、多くの施設・事業所の状態、「a」に向けた取組みの余地がある状態
 c 評価…b以上の取組みとなることを期待する状態

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

保育所版共通評価基準ガイドライン

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>理念、基本方針は静岡市子ども・子育て支援プラン等に明記されている。これを受け本園の教育・保育目標があり、こども園の使命や目指す方向が読み取れる。園内には本園の重点目標が簡潔な言葉で掲げられている。職員には園の全体的計画書が配布され、年度当初の職員会議で周知をはかっている。保護者には入園時の説明会で重要事項説明書や入園のしおりで本園の基本方針を説明している。行事、参観会などで話題にし、継続的に取り組んでいる。</p>		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>こども園課や全国各地の研修会から全国の動向を、未就園児の会から地域の情報を得ている。</p> <p>これらの情報を職員会議で職員に話している。毎月の年齢別区分表をもとに利用者の動向を把握している。南部地域には特別支援の必要な子どもを受け入れてくれる園が少ないので、特別面接枠での問い合わせも多い。中小一貫教育に備え、サポート校として潜在的利用者の把握に努めている。</p>		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組みを進めている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>人材確保と育成、施設整備、待機児童を作らない（兄弟で入園できる）こども園などが課</p>		

題である。公立施設としてハード事業は園独自の取り組みは難しいが、園長会とも連携して施設整備、備品購入、維持補修など市に働きかけている。ソフト事業は保育関連の事業について、定期的な園内研修を徹底する中で課題解決にあたっている。

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>計画設定2年目となる。理念、基本方針の実現に向けて「事業計画」、「人材育成」、「安心・安全なこども園」のほか、こども園を「小中一貫」の中に2年間スポット校」として入れて、子どもの育ちを支えることになった。年間計画があり、週1回の園内研修を通じて課題を明らかにし、PDCAサイクルを定着した園経営を徹底している。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>前項の「事業計画」では保育の連続性、保育環境の充実など、「人材育成」では個人ごとの研修履歴、身につけたい知識・技能、研修実践の発表予定など、「安心・安全」では施設の維持補修、避難訓練、「小中一貫」では保育のニーズ、潜在的利用者数、卒園生の入学予定先などである。1年間の取り組みを反省、評価する場はあるが、事業内容によっては達成度を示す数値的な目標も取り入れたい。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>担当職員が全体計画を作り、月ごとの事業内容について全職員で検討している。担当は早めの立案をし、各分野の進捗状況を把握している。実施後は定期的に園内研修で評価・見直しが行われる。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>保護者には入園時に本園のグランドデザイン、各種事業計画を説明している。外国籍の子ども達が1割を占める本園では、通訳ボランティアの支援を受けながら周知を図っている。園だより、クラスだより、行事ごとのアンケートで各種事業の周知を図っている。PTA運営委員会でも毎月の保育について説明している。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
--	--	---------

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園内研修を週1回行い、月案、週案検討を行っている。クラス担任は研究保育を年1回行い、講師の先生から指導と評価を受けている。今年度はESDの研修会を年3回行い、全国各地で発表の予定がある。PDCAサイクルを取り入れた研究実践のほか、公開保育、事後研修を行い、保育力アップと質の高い保育を担保している。1年間の研修のまとめとして保育実践記録として冊子にまとめている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>各種事業について毎月職員会議でPDCAサイクルに基づき反省評価を行い、次月、次年につなげている。保育についても月案、週案、日案の反省評価を担当は次の保育に活かしている。</p> <p>年4回の園評価を行い、各分野の成果と課題について改善策を確認した。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>年度当初の職員会議で全体的な計画書に基づき園の経営方針、「期待される職員像」を示した。組織運営については事務分掌で各自の役割分担を明らかにし、支援の必要な子どもについて情報の共有を指示した。災害時の対策や園長不在時の対応についても職員は周知している。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>園長は各種研修会に参加し、管理職としての必要な知識を習得している。教育、保育の関連法令、危機管理や個人情報保護関連のマニュアルなどを職員室に揃え、いつでも閲覧できる体制になっている。園配当予算の執行については取引業者が偏らないよう注意している。職員会議では地方公務員としての自覚を促す話もしている。多くの職員が身につけたい知識として「人権に対する理解」を挙げている。社会情勢の変化で改定する法令もあり、最新の情報に注意を払いたい。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発	(a)・b・c

	揮している。	
<p><コメント></p> <p>担任は日案を書き、それについて園長は保育の意図、狙い、子どもの様子、保育者の反省評価にしっかり目を通しアドバイスを行っている。これが課題解決の糸口になり、保育者が自分の保育に責任や自信を持ち、主体的な保育になっている。研修主任を中心に毎週、園内研修を行っている。今年度はESD公開保育を3回行い、外部講師から高い評価を得た。</p>		

13	II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>職員会議で毎月の職員配置について勤務表やローテーション表で運営している。職員の休暇調整も副園長とチェックしている。人員不足が生じているところは時間外対応で正規職員が補っている。予算運用については支出内訳連絡表による税務管理を行っている。</p>		

II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>静岡市の配置基準に従い、子どもや職員数を年齢区分表で毎月確認している。主任保育教諭がいないため、園長、副園長がその都度指導を行う状態である。配置された人員の中で、各種研修を通じて本人の技能と経験を最大限に生かせる職場環境を心がけている。免許取得一覧表をもとに職員の免許取得や更新を確認している。</p>		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>人事管理は静岡市の人事評価制度により行われている。正規職員は所定の評価シート、自己申告書、面談を行っている。園長は正しい評価眼を養うため研修を受け、客観的な基準に基づき行っている。面談では自己評価表や目指す職員像などについて考えを聞き、保育への意欲を持続できるようなアドバイスをしている。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>休暇や時間外労働は偏りが起きないようにローテーション表を使って計画的に行っている。</p> <p>毎 日の健康チェックと健康診断を必ず受ける、日常のコミュニケーションを大切にして職員 の 相談しやすい雰囲気を作る、学校共済や市互助会等の福利厚生事業を利用している。</p>		

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>人事評価制度を利用して組織重点目標シートを配布し、職員一人一人の目標と成果指標を設定している。年度中間、年度末に面談を行い、目標の確認、中間フォロー、達成水準を確認している。人材育成の中長期計画があり、ユネスコスクールとして登録されていることもよい刺激になり、園内外の研修と発表の機会がある。</p>		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>中長期計画には個人別の人材育成計画があり、経験年数と専門性に応じた研修計画になっている。職員の資質向上は園内研修を週1回設けて、自己課題の解決方法や保育力向上につながる研修を積み重ねている。今年度は「はごろも助成金」を使い職員各自が選定した先進園の研修会参加と元文科省の先生を講師に招き研修会を開いた。</p>		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>保育者に求められている専門性を様々な研修を通して学び、資質の向上を図っている。研修はこども園課や園長会が主催する系統的な研修と他の研修機関が実施するものに自主的に参加する研修がある。職員の希望や担当するクラスの状況に応じて計画している。</p>		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>実習生受け入れマニュアルがあり、学校と連携をとっている。事前に説明会が開かれ、実習目的に合ったプログラムが組まれている。公立こども園の使命として多くの実習生を受け入れてきた。実習生の受け入れについては園だよりで保護者に知らせている。実習期間中に巡回する先生には実習生の状況を伝え、要望なども聞いている。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>HPに週2回、保育や子どもの様子について「すくすく日記」で取り上げ更新している。年4回の評議委員会では、園の運営や事業について審議してもらっている。PTA総会では予算について承認を受け、学期末には予算執行状況の監査を受けている。苦情受付は園内と郵便ポストを利用している。小学校にも園だよりが張り出されている。</p>		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組	a・(b)・c

	が行われている。	
<p>こども園課主催の事務説明会やe ランニングを使った研修を受講している。担当された予算は年間計画に沿って支出され、稟議書により園長、副園長、担当が確認している。主食費、1号認定児の希望給食代、教材についても確認している。年度末にPTAの監査を受けている。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント> 本園の学区は「地域の子どもは地域で育てる」という教育観のもと固く結束し園への協力を惜しまない。自然環境、人的環境を保育にとり入れ、お茶摘み、たけのこ堀、竹粉の堆肥化焼き芋会などがある。動物園、静岡ガスなどの地域の施設を利用した本園ならではの保育も年間計画に入れている。小中一貫のスポット校として小学校や近隣こども園、小規模園との交流も盛んである。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a (b) c
<p><コメント> ボランティア受け入れマニュアルがあり、基本姿勢と受け入れ手順を示している。認定単位となる教育、福祉関係の学生も多い。事前にオリエンテーションを行い、ねらいや計画を明確にして受け入れている。職場体験や実習は内容と感想を実習日誌にきちんと記入し、ねらいの達成を確認している。地域の中学校3校はボランティアで園内清掃、運動会の手伝いをして、学校同士のつながりを深めている。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a (b) c
<p><コメント> 職員室に簡潔な事業内容と連絡先を掲示し、素早い対応ができるようにしている。近隣校に 兄弟が在籍している子どもの情報を共有している。障害児保育やESD研究のため専門機関 と連携して連絡を密にしている。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	(a)・b・c
<p><コメント> 遊戯室や園庭を開放し未就園児の会「げんきっこ広場」を行っている。遊戯室にマットを敷き、乳幼児がおもちゃで遊んだり、園児が歌や踊りをしている。保健師、歯科衛生士、栄養士、子どもヨガインストラクターを招き、保護者が子育てのヒントになるような座談</p>		

会を行っている。小学校の運動会の時、園庭を保護者の駐輪場として開放した。隣の農協が農協祭を行う時にも園庭を開放し会場として使ってもらった。		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・(b)・c
未就園児の会「げんきっこ広場」の開催を広報で流し、多くの親子が参加した。子育て相談や入園希望の保護者の相談に乗った。南部保健センターと連絡を取り合い、1歳半健診、3歳児健診で気になった子どもを入園後まで連携して見守り支援をした。地域の運動会、災害訓練、幼児、小中学生を対象にした訓練への参加を地域と小中学校と協力して行っている。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>本園では「願う子供像」として、あたたかさ、たくましさ、自分で考えることをあげている。園評価や保護者アンケートでは、職員が子供の育ちについて繰り返し評価、反省を行っていることに共感し、子どもを尊重していると捉えている。本園は特別支援の必要な子供たちが通園しているが、支援のある・なしに係わらず、インクルーシブ教育を行っている。本園の1割の子どもたちが外国籍のため、多文化共生を意識した教育、保育を行なっている。保護者はこれらについて理解を示し、保護者同士がフレンドリーな関係を築いている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>県やこども園課で行っているプライバシー保護や人権研修に参加し、園に持ち帰り伝達講習を行った。子どもの様子に常に気を配り、外傷のある場合は直ぐに児童虐待マニュアルを見て疑問点について話し合う習慣がついた。着替えの時にはプライバシーが守れる仕切り、トイレのドア上部のカーテンなど、外から見えないようにしている。園児の1割が外国籍のため、態度や言葉づかいに注意を払っている。多文化共生でもあり、日本人の感覚では理解できないケースも生じる恐れもあり、事案の収集と対応の記録を残したい。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>園のHPや玄関前の掲示板でこども園情報を伝えている。未就園児の会でも相談に乗っている。入園希望者、見学者にはパンフレットを用意し、特色ある保育について説明してい</p>		

る。31年度入園希望者が定員を超えたので抽選になったことも伝えている。		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>入園時に保護者に重要事項説明書を配布し、同意書を貰っている。配慮の必要な保護者や外国籍の方には外国語の分かる保護者や大学の先生に通訳をお願いしている。保護者の就労で変更が生じた場合は、子育て支援課に報告し、変更手続きを行っている。兄弟関係で配慮の必要な場合は小学校と連携を図り、保護者に説明している。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>園児指導要録により転入、転出の手続きをしている。転園する保護者に在園証明書を渡し、転園先から連絡を受けてから指導要録の写しを送っている。転園前後の相談にも応じている。</p> <p>私立の園には今のところ決まったルールはなく、その都度対応している。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取り組んでいる。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>職員全員で定期的に日案、週案、月案を検討する場を持ち、PDCAサイクルによる反省評価を行い、見直したところは次につなげている。行事ごとの保護者アンケート、年2回のクラス懇談会や面談で園長を交えて要望などを聞く機会がある。PTA活動への理解者も増えてきた。子ども園に移行後の1号、2号の細部の調整に努めている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>苦情対応マニュアルがあり、苦情解決ポスターを掲示して苦情受付箱を設置している。保護者には年度当初の説明会で苦情解決の仕組みを説明している。苦情内容について園としての対応を協議し、園だよりで公表している。苦情、意見、要望の境界は曖昧であることが多いので、それぞれの受付内容を吟味し、仕組みがうまく機能するルールも検討したい。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>職員全員の顔写真と氏名を玄関先に掲示している。園長、副園長は朝の登園時に保護者や園児に声掛けをし、子どもの様子や頑張る姿を伝えている。相談は会議室を使って落ち着いた雰囲気で行っている。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・(b)・c
<p><コメント></p>		

<p>相談や意見のフローチャートがあり、相談内容は報告書に記入し回覧、園長のアドバイスを受けている。担任にあった相談内容は全職員が共有し、一人では気づけなかったことにも気づけけるようになった。要望、意見、トラブルの園の対応について、保護者アンケートでは満足度が十分とは言えず、改善の余地が残されている。</p>		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。</p>		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a (b) c
<p><コメント> 年間安全計画（生活、交通、災害、管理）があり、毎月の実施項目が決められている。毎月1回、園内外の安全点検と決まりや約束事の確認をしている。ヒヤリハット情報の収集、避難訓練、不審者訓練も行っている。ヒヤリハットマップを園内掲示すると分かりやすい。園内見取り図には消火器の位置を明示したものを用意したい。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a (b) c
<p><コメント> 感染症は生活安全活動として年間計画がある。感染症対策ガイドライン、嘔吐処理手順を備えている。各クラスには嘔吐処理セット、バケツを備えている。定期的にこども園課の看護師が巡回し、予防と対策について指導を受けている。嘔吐があった場合、他の空き教室を利用することになっている。感染症発生時には発生情報を園庭に掲示している。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a (b) c
<p><コメント> 園長は入園時に重要事項として非常時対策を保護者に説明している。全職員の連絡網、クラス連絡網を作り、保護者には一斉メール配信の体制を築いている。緊急避難連絡簿を避難用リュック、保管庫に入れ、安否確認が出来るようにしている。災害時、園時3日分の非常食、災害用品を確保している。園児の引き渡しは引き渡しカードを使用した訓練を行っている。先の台風で停電が数日続いたことがあり、保育の継続についての対策が求められる。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
<p>Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。</p>		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a (b) c
<p><コメント> 日案、週案、月案で検討されたことが、職員共通の保育について標準的な実施方法とされている。園の重点目標を具現化する進め方については、全体的な計画で詳しく述べられている。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確	a (b) c

	立している。	
<p><コメント> 日常の保育についてPDCAサイクルによって定期的、継続的に見直されたことが、職員共有の標準的な実施方法になっている。見直しについての文書化には十とは言えない。</p>		
<p>Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。</p>		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a (b) c
<p><コメント> 入園時に保護者から児童票、保健表などの提出があり、面接調査で一人ひとりの家庭状況、健康状況、保護者の保育実施上のニーズを聞き取っている。特別支援の必要な子ども達には個々のサポートプランを作っている。担任が作ったサポートプランを強化事業の研修会で発表し、専門家にアドバイスをもらっている。各クラスの気になる子どもについても支援方法や手立てを話し合い、全職員共通の理解を得ている。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a (b) c
<p><コメント> 毎月の職員会議で日案、週案、月案について定期的に反省、見直しを行ない、次に活かしている。毎日園長が日案を見てアドバイスするので、日案を修正し、子どもの実態に即した保育がタイムリーに行われている。学年末に園評価を行い、次年度につなげている。</p>		
<p>Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。</p>		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a (b) c
<p><コメント> 子どもに関する保育の記録は日案、週案、月案として保管され、随所に園長のアドバイスの赤ペンが入っている。特別支援のサポートプランの書き方は、全体的な計画書の中に「日誌記入の仕方」として、記録内容や書き方に差異が生じないように注意書きがある。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a (b) c
<p><コメント> 個人情報保護条例に基づき管理され、管理者が決められている。保存は生きの期限が明記されている。名簿やカメラは持ち出し簿があり、書類管理は鍵のかかる鉄庫に保管されている。 個人情報の保護については理解が進んでいるが、保護者からの情報開示には十分とは言えない。</p>		

保育所版内容評価基準ガイドライン

評価対象 A-1 保育内容

	第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成	

A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>教育及び保育内容並びに子育て支援に関する全体的な計画が編成されている。保育課程の中に、児童憲章、保育の理念・保育方針・子どもの発達過程・子どもの家庭状況屋保育時間・地域の実態を踏まえて、考慮して編成している。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	(a) b・c
<p><コメント>事例</p> <p>砂場の砂が、子どもたちがいろいろな遊び方に、工夫ができる砂を取り入れている。薬剤師による定期的な環境全般の検査を行っている。点検については、各安全点検表に基づき行われている。園内研修では、各年齢発達に合わせて遊具・教材は季節ごとに環境構成し、工夫している。</p>		
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの個人差を配慮して、職員間で共通理解がさている。子どもの内面や状況を組み取り必要な時は代弁し、必要な言葉を知らせその場に応じた援助をしている。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>個々の発達を把握し、保護者との情報交換を行い、各計画書に記載して生活習慣を身につけるようにし、環境整備（排泄について、プライバシーにも努めている）及び援助している。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>子どもが主体的に活動できる生活と遊びの環境整備ができています。地域・社会体験が得られる工夫も行われている。事例 戸外遊びの中で、縄跳び遊びを通して、異年齢交流も行われている。</p>		
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>乳児保育は行っていない。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>乳児保育は行っていない。</p>		
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配	a (b) c

	慮している。	
<p><コメント></p> <p>全体的な計画の中に各年齢の発達特徴を踏まえて、保育内容や方法に配慮し協同的な活動について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫が行われている</p>		
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>特別支援計画が作成してある。個々のサポートプラン指導計画書を作成している。保護者と連絡を密にとり、保育生活をスムーズにできるよう環境の整備を行っている。職員研修を行い医療機関・専門機関からの助言を受けている。</p>		
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>保育室の環境整備を行い、子どもの生活の様子や育ちを保護者に伝えている。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>全体的な計画（小学校との連携）が記載してある。保育所保育要録が作成している。近隣の小学校との公開保育及び事前研修・事後研修を行っている。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>保健計画書及び子どもの健康に関するマニュアル・計画・記録により健康管理の実施体制及び実施状況を保護者に伝え情報共有をしている。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>健康診断・歯科検診の結果を家庭での生活につなげ、嘱託医や医療機関との連携を図っている。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>食物アレルギーの子どもはいるが、医師からの指示を受け適切な対応をしている。。</p>		
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>各家庭によって異なる食事が提供している（お弁当・外販弁当）。栽培計画書に基づき、季節に応じた栽培を行っている。事例 お茶の葉をつみ、自分たちで摘んだお茶の葉を蒸していただき、お茶パーティーを楽しむ。</p>		
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を	a・b (c)

	提供している。	
<p><コメント></p> <p>家庭によって異なる食事が提供されている（お弁当・外搬弁当）各衛生管理体、できている。外搬弁当の設置場所に無理がある（職員室）。</p>		

評価対象 A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
流園 A17	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育内容については、保護者会・保護者懇談会・保育参加会等機会あるごとに保護者に理解しやすい方法で伝えている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A18	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>登園・降園に家庭との情報交換を行い、保護者からの相談は、個々の状況に合わせて行っている。（個別面談・個別支援等）</p>		
A19	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度はない。虐待に対して、早期発見・早期対応に努めている。虐待に対するマニュアルを整備し、それにも基づく研修も実施している。</p>		

評価対象 A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A20	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育士は、各年齢ごとに保育計画や保育記録を通して、保育実践を振り返り自己評価を行っている。園全体の質につながっている。</p>		